

日韓市民ネットワーク・なごや

한일 시민 네트워크 · 나고야

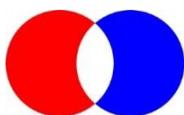
Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

会報 No. 69

2014-5-25

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

P 1 事務局通信
P 3 総会資料
P 6 会員の広場

統括幹事：後藤和晃
事務局
会員 1名

事務局通信

사무국 통신

事務局統括幹事

後藤和晃

(1) “水崎翁追慕祭”継続に一すじの光 ～ 韓国・大邱市 ～

4月11日、韓国・大邱市の寿城池で“大邱農民の恩人”とうたわれる日本人、水崎林太郎翁（故人）の追慕祭が、韓日から40人が出席して、粛々と行なわれました。岐阜市出身の水崎翁は大正4年（1915年）に大邱に移住、そこで日照りや洪水に翻弄される貧しい農民の暮らしを目撃しました。彼は、さっそく「おおきな貯水池を造成すれば、洪水も水不足も一気に解消する！」と考え、構想の実現に動きます。当時の慶尚北道の日本人知事を断固として説得、朝鮮総督府ともかけ合い、ついに昭和8年ごろ、その夢が実現します。寿城池と呼ばれた大貯水池の完成で、260万坪もの水田が新たに生まれ、貧しかった農民たちの暮らしが一変したと伝えられています。



水崎林太郎翁の墓



挨拶する松井総領事（在釜山）

今回の追慕祭は昭和14年に逝去した水崎翁の76回忌を兼ねるものでしたが、私は当日まで「追慕祭はこれが最後になるのでは!？」との不安を捨て切れないうまま出席したものでした。その理由は、水崎翁の墓を70有余年、守り通してきた大邱の徐一族の中心人物、徐彰教（ソ・チャンギョ 82歳）さんが長期入院中で追慕祭への出席も無理と聞いていたからです。

徐さんは、水崎翁と共に寿城池の実現に尽力した父の徐寿仁（ソ・スイン）さんや兄の徐大教（ソ・デーギョ）さんから水崎翁の墓を守るように!との願いを託された人です。その徐彰教さんの入院が続いている以上、今後の追慕祭の継続は、なかなか難しいのではないかと思います。

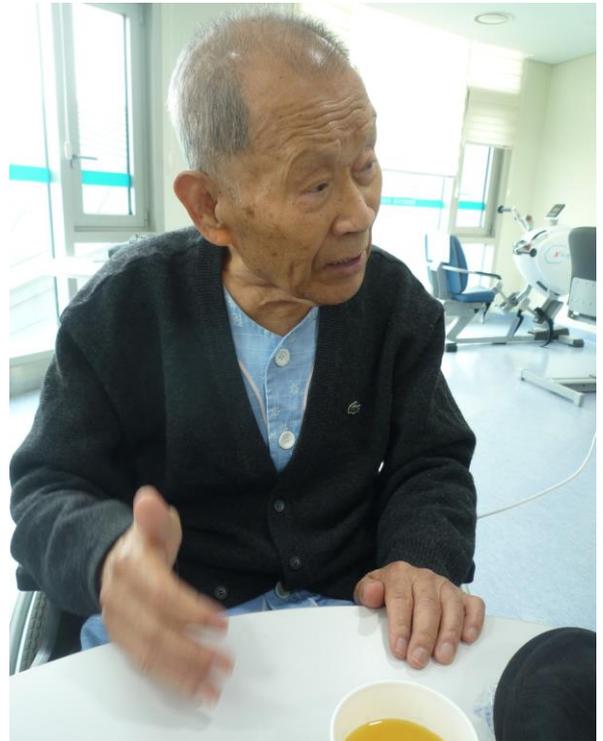
ところが今年の追慕祭は、40代と思われる数人の男女が中心になって、手際よく進んでいきました。行事が終わったあと、彼らと共に食事をしたのですが、その一人で日本で17年間暮らした経験を持つ劉善元（ユ・ソンウォン）氏は、追慕祭は、必ず続けると、こう話してくれました。

「徐彰教さんは本当に永い間、個人で墓守りを続けてこられました。これからも僕らの指導者として導いてもらいます。そして水崎さんの墓は僕らが徐さんを支える組織を大きくして守って行こうと考えています。できれば2～3年のうちに墓の近くに水崎さんの業績がよく分かる記念館を小さくてもいいから建てたいね、と皆で話あっている所です。」

劉さんたちは、医療関係者を中心に、徐さんを支えてゆくグループをつくりつつあるといいます。

私も徐彰教さんとの交友は足かけ27年に及びますが、徐さんの思いが劉さんたち若い世代に受け継がれ、追慕祭が継続されていけば、こんな素晴らしいことはないと思いました。

大邱の若い世代の活躍を切に期待するものです。



ご療養中の徐彰教さん

(2) 第17回 総会の特記事項報告

4月27日に第17回総会を行ないました。総会の中で確認や承認を受けた内容は“会の活動報告”のコーナーで詳しくお知らせしますが、ここでは総会で特に強調し、皆さんの強力と支援を求めた二つの項目について触れておきたいと思います。

① 事務局体制の刷新に、ご協力ください！

会の発足から実に17年目という永い歳月が経過し、事務局体制の維持が年々、難しくなっています。中核メンバーの引退や高齢化がすすむ中、一部の幹部に事務が集中する結果となり、このままでは事務局を円満に運営することができなくなる恐れがあります。具体的に言えば、特定の幹部に会の会計から会報の編集、交流史紀行の業務に至るまで担当してもらうようになってきており、このままでは、ご当人の家庭環境にまで影響が及ぶことが憂慮されています。こうした状況を何とか改善しなければ会の存続も当然、危うくなると考えています。総会では、この幹事に担当してもらっている仕事のうち、まず会計部分をどなたか引き受けていただけないかと申し上げました。誰も受け手が現われなくなれば、来年には（日韓交流に係わる連絡・調整を行なう）事務局機能だけを残して、他の活動の大半を休止することになるかも知れないとお伝えしました。

総会後の懇親会では「日韓交流史講座や日・韓・中・三国を舞台とした日韓交流史紀行は盛況を極めているので、ぜひ継続を考えて!!」との声が相次ぎました。むろん、そのようにしたいとは望んではいませんが、それも事務局体制の補強がある程度、図られたら…ということになるでしょう。

日韓関係が戦後、最悪といわれる今、この時にささやかでも“市民・学生による日韓交流”を永年、続けてきた会の歴史に幕を下ろすことには率直に言って、ためらいがあります。私たちは過去16年間、私たちの団体の他に、政治も宗教も営業行為とも一切、係わりを持たない団体を国内で殆ど見出すことができませんでした。それだけに会の皆さんの協力を得て事務局体制を補強し、会の活動を細々とでも継続できるようになればと願っています。よろしくお願いします！

“日韓市民ネットワーク・なごや” 2013年度事業報告

月	日	曜日	行 事	備 考
4	5～7	金～日	日韓交流史フォーラム主催 金沢・能登“古代幻視”紀行（25名参加）	金沢学院大教授 小嶋 芳孝 氏
	11～12	木～金	“大邱農民の恩人”水崎林太郎翁75回忌 ～ 韓国・大邱市寿池 ～	事務局 後藤 和晃
	13～14	土～日	ソウル高麗大と光州YMCAと会談 ～ 今後の受入れ態勢関連 ～	事務局 後藤 和晃
5	3～6	金～月	グループ“ハムケ”日韓の高校生交流	グループ“ハムケ” 久田 光政 幹事
	18	土	会報65号発行	事務局など
8	9	金	会報66号発行	事務局など
10	14	月	留学生運動会を応援	事務局 山田雅樹
11	4	月・祝	犬山市八曾・大野遊会（56名参加）	事務局・会員・留学生・大学生
	18～20	月～水	日韓交流史を学ぶ ～ 伯耆・出雲紀行～（33名参加）	前日本考古学会会長 西谷 正 氏
12	10	火	会報67号発行	事務局など
	18	水	第34回 韓日歴史・文化フォーラム 日本古代史に刻んだ百済王族の足跡 講師 ～百済王氏研究者・三松みよ子氏	事務局・会員
2014年				
1	11	土	話してみよう韓国語第4回大会 ～於：名古屋国際センター～	実行委員会に参加 事務局ほか
2	4	火	会報68号発行	事務局など

2013年度 会計報告書

2013年4月1日 ～ 2014年3月31日

前年度繰越金 ￥ 531,809
 今年度収入額 ￥ 297,895
 今年度支出額 ￥ 354,940

次年度繰越金	￥ 474,764
内訳 郵便貯金	470,000
現金	4,764

収入の部		支出の部		2010-12 平均
① 今年度会費	293,000	① 通信費	181,160	213,122
¥4,000×72名		会報・案内・資料送付	61,160	93,122
¥3,000×1名		事務局電話等活動費用	120,000	120,000
¥2,000×1名		② 印刷・コピー費	27,896	44,641
② その他の収入	4,733	③ 事務用消耗品費	24,388	42,422
11/4 日韓・大野遊会 残金	2,733	④ 日韓交流関係費	10,000	96,585
会費納入時の寄付	2,000	⑤ ホームページ運用費	44,940	44,940
③ 受取利息	162	⑥ 会議・会場費	5,962	11,694
		⑦ 協力者謝礼	22,894	55,146
		⑧ 交通費・下見費用	28,500	55,956
		⑨ 雑費・手数料	9,200	5,876
計	297,895	計	354,940	570,382

※ 会費や寄付金等のお振込の際の郵便振替口座は 入金があり次第、即現金化をしておりますので、この報告書では 全て現金勘定扱いとして記載し、郵便振替口座収支の報告は省略させていただきます。

2014年3月31日 上記の通り報告いたします。 会 計 伊 藤 みつ子
 監査の結果、正確であることを認めます。 会計監査 伊 藤 義 郎

’2014年度 日韓市民ネットワーク・なごや 組織表

顧問 団	名誉顧問	鄭 煥 麒	事務局 局長 後藤 和晃 事務局次長 鈴木幸之助 事務局次長 東 道生 幹事兼務グループ 事務局補佐 鈴木 真由 事務局 山田 雅樹 事務局 武田 章敬	交流 リ ダ 1	徐 彰 教	韓国での交流
	〃	横内 恭			武井 一	日韓交流史
	〃	伊藤 秋男			加藤 勝	囲碁交流
	代表顧問	石原 俊洋			伊藤 義郎	歴史・考古
	顧問	尹 大 辰			土岐 良文	歴史・考古
	顧問	李 尚 勲			三尾 和廣	森で遊ぶ
		土本美恵子				
全 員 幹 事 団 兼 務	統括幹事	後藤 和晃			田口 良浩	ハイキング
	副統括幹事	鈴木幸之助			長澤 進	日本古典音楽
	幹事（会計）	伊藤みつ子			山田あき子	朗読・能
	幹事（渉外）	大嶋 明			鈴木 健介	大学生・留学生
	幹事（留学生）	須田奈保美			石田 樹梨	
	幹事（高・大生）	久田 光政				
			グセ ル 話 や き 1 プ	増田 一夫 松田 哲育 佐藤 昭子 山本 玲子		
			監査	会計監査 伊藤 義郎		

“日韓市民ネットワーク・なごや” 2014年度行事...

月	日	曜日	行 事	備 考
4	11	金	水崎林太郎翁 追慕祭参加 ～ 韓国・大邱市 ～	事務局 後藤和晃・鈴木幸之助
	27	日	日韓市民ネットワークなごや第17回総会 日韓交流史講座 VI 山東半島 (1) ～ 考古学で見る山東半島 ～	事務局・会員 前日本考古学会会長 西谷 正氏
5	25	日	日韓交流史講座 VI 山東半島 (2) ～ 鬼神がやってきた道 ～	奈良大学教授 千田 稔氏
6	21	土	日韓交流史講座 VI 山東半島 (3) ～ 慈覚大師 円仁 と 張保阜 ～	京都・毘沙門堂執事長 小林 祖承氏
7	11 ～16	金 ～水	韓国高麗大・交流団来名 奈良同行・ホームステイ検討	事務局・会員・協力者
	27	日	日韓交流史講座 VI 山東半島 (4) ～ 山東半島の近現代 ～	日比谷高校教諭 武井 一氏
8	30	土	講演会共催 (FARフレンドアジアロード) 「堤岩里教会」に通い続けて	最所 潤氏
9	15 ～19	月 ～金	日韓交流史講座 VI 山東半島 紀行	前日本考古学会会長 西谷 正氏
2015年				
1	10	土	話してみよう韓国語第5回大会に協力 ～ 名古屋国際センター ～	
			韓国歴史・文化フォーラム10年記念講演に協力 ～ 日程・詳細未定	
3			日韓市民ネットワークなごや第18回総会	事務局・会員

この他に、会報の発行を予定しています。

② 高麗大交流団の奈良訪問をご支援下さい！ ～ 7月13日 ⇒ 14日 ～

総会資料の中で、今年度の行事予定を見ていただくと、韓国・ソウルの名門大学、高麗大の教育学部の学生交流団の受入れを行なうことが記されています。

高麗大の教育学部とは、過去 10 年、親密な関係を保ち、交流団をすでに 2 回受け入れた他、教授や学生たちと様々な場で交流を重ねてきました。今回の交流団の来訪スケジュールは下記の通りですが、その行程の中の 7/11（金）～7/12（土）の一泊二日のホームステイと奈良旅行の資金の応援を行いたいと考えています。ホームステイする学生数は 12 人前後と予想しており、これまでにホストとしてご協力いただいた皆さんに順次、声をかけている所です。

奈良旅行の提供の理由については、これまでも幾度となくご説明しました。日韓交流史について全く知識の無い韓国人学生でも、ひとたび奈良を訪れると、古代における半島と日本の結びつきが、想像よりはるかに深かったことに目覚め、日本の文化や日本人そのものへの関心を一気に深めてくれるのです。ただ、今度の奈良旅行の資金は、これまでのように全てを当会が負担する形ではなく、皆さんから寄せられた善意の寄付の範囲内で協力することにします。今回の交流団の招請がこれまでに比べ、ホームステイの日数や奈良旅行の支援など、いずれをとっても負担を軽くした先行例になれば、と願っています。

大変恐縮ですが、交流団の奈良旅行を応援して頂ける方は、少額で結構ですので、同封の振込用紙で郵便局から会の口座まで、お振込みください。6月20日までにお願いいたします。

会の口座名 日韓市民ネットワーク・なごや 口座番号 00830-4-36485

高麗大交流団・予定

- 7/11（金） ソウル ✈️ 名古屋 ～ 名古屋韓国学校でホストと面会 ホスト宅泊まり
- 12（土） ホストと一日行動 → 名駅西 サミットホテル泊まり
- 13（日） ホテル発（マイクロバス）→ 奈良法隆寺 → 奈良ユース泊まり
- 14（月） ユース発 → 平城宮跡 → 東大寺 → 名古屋サミットホテル泊まり
- 15（火） （名大生との交流）
- 16（水） サミット発 ～ セントレア（名古屋？） ✈️ ソウル



（ 2011 年夏 高麗大訪問団・奈良見学 ）



회원마당 会員の広場

こちらでは会員の皆様の声を載せております。
皆様から、「会員みんなに伝えたい!」「韓国のここが
好き!」は勿論、「こんな旅行して来た」等、日々の暮らしの
様子などの皆さんの声を是非、お送り下さい。

東 欧 へ の 旅

長 澤 進

平成26年5月1日から9日まで東欧の旅をしました。クロアチア・スロベニア地方ですが、何せ日本からはドーハ・ブダペストでの乗継でかなりの飛行時間には丸一昼夜掛ります。元来、言語民族的にはスラブ系に属していますが古来ギリシャローマの影響を受け、至る所にゴシックロマネスク建造物が見られプーラの円形劇場やスピットのデオクレティアヌス宮殿は、正に其の最たるものです。

アドリア海の真珠と絶賛されるドブロブニクの風物は、特に中世の遺跡が豊富でキリスト教の施設に富んで赤い瓦に城の城壁は、周囲の緑の背景に絵画的には絶妙なコントラストを呈しています。

オーストリアのハプスブルグ、チェコ、トルコ モンゴルの侵攻に晒され、更には近代ではボスニアヘルツェゴビナドイツ、バルチザン運動を経て、まるで文明の坩堝住民の苦勞は並大抵ではないようです。シャープペン通信機の原型の発明海運業の簿記の採用詩や、文学の豊かな遺産も開花しています。

自然に恵まれ湖畔のブレッドに浮かぶマリヤ聖教会ポストイナの広大な石灰洞窟、世界遺産にされたプルトビツエは 一度は訪れてみたい風光明媚な山岳探索リゾート地です。

